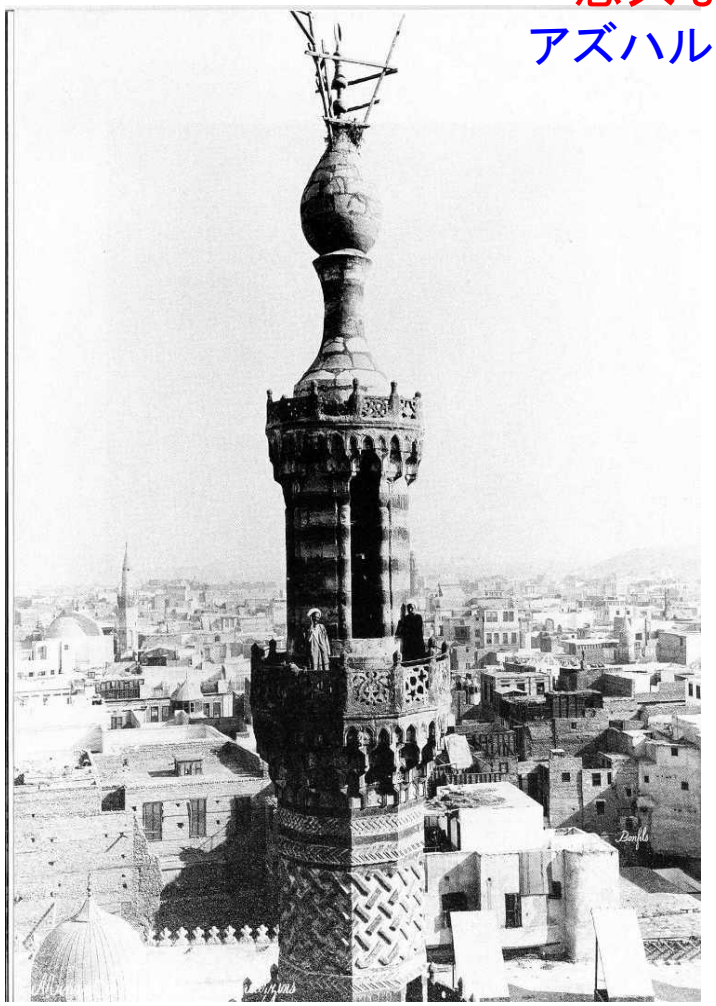
# 2. 歴史

ca.1870s　　悠久な時間の流れ　　1987

アズハル・モスクのミナレット



Barry Iverson, *Comparative Views of Egypt. Cairo:One Hundred Years Later*, Zeitouna,Cairo, 1994

# 時間と歴史

物理的な時間と人間的な時間
⇒歴史とは、人間的な時間の積み重ねである

人間的な時間：社会生活との関係のなかで認識され、切り取られた時間

①人間的ものさしによる年齢、持続期間、変化の量であり、相対的な時間の流れ

②経験として認識され、本来、周期性と反復性をもつ時間の流れ

⇒労働によって外界の物質的世界に働きかけ、生活の糧を得るプロセスである経済は、物理的な時間と人間的な時間の交差する社会生活のなかで展開する。

ノルベルト・エリアス
『時間について』法政大学出版局、1996年、46-47頁

- それ〔時間をものとして表現する言い回し（筆者）〕は、時間はたとえ人間が五感で知覚できなくても、なんらかの感覚のなかにあり、厳然と存在し、そういう実在として人間によって決定され測られるものである、という神話をいっそう強固にしている。時間独特のこういう存在様式について、われわれは倦むことなく、いや実際に何世紀にもわたって哲学的思考を重ねてきた。神秘的な時間について次々に新たな思弁を弄ぶことができるし、秘密めいたものをあやつる名人を自認することもできる。そこには本来、何の秘密もないのであるが。・・・（中略）・・・≪時間≫という名詞を動詞形にして時間決定の問題を追究してみれば、社会的出来事の時間決定と物理的出来事の時間決定は完全には分離できないことがただちにわかるだろう。

# 「三層の時間論」
## フェルナン・ブローデル（1902-85）

### 三層の時間

長期持続 ：世紀単位でしか変化しない緩慢な時間の流れ

ex. 環境と人間の心性の変化 →社会史

中期局面 ：10年、20年、どんなに長くても50年を越えることのないサイクルで推移する時間の流れ

ex. 経済変動→経済史

出来事 ：日々刻々と休むことなく生起する時間

ex. 政治情勢→政治史

### ⇒歴史学は「全体史」でなければならない

歴史学は人間の営みの全体的把握を目指す学問であり、自然環境、人間の心性（社会史）から経済・社会変動（経済史）、政治情勢（政治史）まで、この三層の時間のなかで生起するすべての変容、変化を研究テーマにしなければならない 。